

第150号(2014)

〒733-0032 広島市西区東観音 8-10

NPO ワールド・フレンドシップ・センター

理事長：山根美智子 館長：Richard&Xinia Tobias

TEL (082) 503-3191 FAX (082) 503-3179

E-Mail: wfchiroshima@nifty.com

URL: <http://www.wfchiroshima.net/>

WFC blog: <http://www.wfcpeace.blogspot.jp/>



韓国PAXを迎えて

PAX委員 山根美智子



(宮島でのしゃもじ作り)

WFCでの韓国との平和使節交換プログラムは2003年に始まりました。昨年はWFCから4人を韓国に派遣し、今年は韓国から7人、23歳から28歳までの若者を迎えることができました。韓国から Jo さん、Seo さん、Minji さんの3人、アメリカ人の Sarah さん、Kate さん、カナダ人の Heather さんと Michael さんのご夫婦と、バランス的に面白い組み合わせだったと思います。4月30日から5月4日までと言っても正味3日間で、全てのプログラムをこなすには、忙しすぎた感がありました。皆さん大変満足して帰国され、安心しました。

到着の翌日、5月1日の午前中は、岡田恵美子さんも登場している“Atomic Mom”のDVDを鑑賞し、その後、車地かほりさんの通訳で岡田さんの被爆証言がありました。その後歓迎ポットラックパーティーが開かれましたが、皆さんが食べきれないほどのご馳走を持って来てくださり、WFCの一致団結する底力を感じました。原田幸江さんのフラダンス、館長達のデュエット、ピースクワイア一の歌、いさじ章子さんと高雄きくえさんの韓国の太鼓チャンクの素晴らしい演奏もありました。そ

の後PAXの人たちの KOPI (Korea Peacebuilding Institute) の活動と、Connexus Language Institute の発表を聞きました。参加者の一人でハンセン病元患者の林東植 (イムトンシク) さんが盲導犬のランブルと来てくれて嬉しく思いました。そして彼のハンセン病になった時の悲惨な体験をお聞きました。昨年「ローソクの炎」という本を出版されています。

5月2日は平和公園の碑めぐりへの参加、その後宮島へ移動し、今田裕子さんの案内で、厳島神社や大鳥居を見て回り、しゃもじ作りの体験もしました。夜はホスト・ファミリーも参加して、カラオケ・ハウスで3時間、本当に楽しい時を過ごしました。歌には国境がないという事を改めて実感しました。5月3日は縮景園を散策、その後原爆資料館を見学し、自由行動となりました。翌日早朝韓国へと帰国されました。このPAXのイベントに多くの方が参加され、支援してくださいました。皆様のご協力なしではこのPAXを成功裡に終わらせることは不可能でした。皆様に心から感謝申し上げます。



(フラワーフェスティバルにて、ミンジ、ケイト、ヘザー、修道大学学生たち)

ミンジ・パーク



(縮景園にて、PAX メンバーと修道大学学生たち)

「広島で大人は平和のために力をつくし、子供はそんな大人の中で平和を学んでいる。」

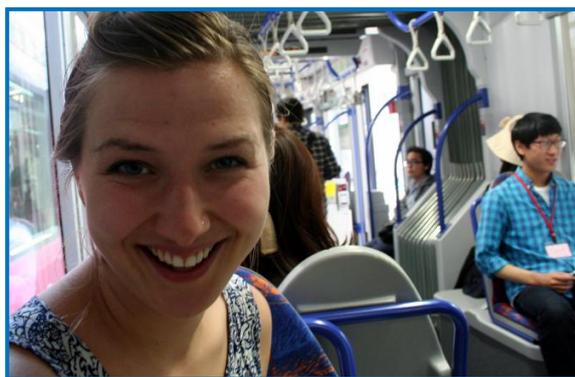
原爆で苦しみ、家族を失って悲しみながらも、広島が続けた平和へのあゆみは、私たちが後に続かなければならない道だと思います。戦争と武器のない世界を作ろうと努力しながら、人類に対する信頼と愛に生きる道を見出さなくてはならないと思います。ここ広島で、平和を求める叫びだけでなく、悲しみと痛みを心深く感じ、広島の人々に思いをはせます。痛みを経験した人は、その苦しみがどれほど深くつらいものか分かっています。だから私はそれを経験した人たちの言葉に耳を傾け、そして平和のメッセージを受け取ります。

平和公園には原爆で亡くなった人々に捧げる折り鶴がたくさんあります。それは平和のシンボルでもあります。広島に来る前は、折り鶴は大好きな人にあげる物だったり、願いをかなえてほしい時に折るものだとしか考えていませんでした。しかし、今は、折り鶴は私に、強く本当の平和の意味を伝えています。韓国で起きたフェリー事故の犠牲者を弔うために使われている黄色いリボンと同じようなものだと考えるなら、折り鶴を、だたの折り紙だと思ってながめることはできません。

もっと多くの人が平和のために声をあげ、本当に平和な世界が実現することを願っています。

ヘザーとマイケル

広島が戦争の惨劇、苦しみ、苦悩を受けた場所というイメージを持って日本にやってきました。原爆が落とされるまでのいきさつ、そしてその原爆の恐ろしい惨劇を学ぶことが出来て、とても感謝しています。しかしながら、私達は広島を「平和都市」として甦らせた人々の努力に驚ろき、またとても感動しました。



(ヘザー)

私達は平和公園がただ厳かな所だろうという認識しかありませんでした。でも原爆を被った人々にとって、より前向きに、元気を持って生きなければと思う場所なんだと感じて、とても心を打たれました。1945年8月6日のあの恐ろしさや悲しみを伝えることだけに力を注ぐのではなく争いのない調和への道を目指そうとしているように思いました。私たちがついた日はちょうど年に一度のフラワーフェスティバルの初日でした。公園は花で飾られ、マーチングバンドがパレードをし、その日はお祭りでした。

私達は被爆者やその家族の方達は今だに怒りの気持ちを持っていると思っていました。しかし、被爆者の方達から聞かれたのは非難の言葉ではなく、ただ二度とくり返してはいけないという強い気持ちだけでした。広島で会った人々はみな、壊れてしまった国同士の関係をなんとか修復したいと思っています。ただ過去を忘れることであっても、過去の過ちを認識して和解しようとするということであっても、前向きに進むという一貫した態度に心を打たれました。

WFC の皆さんのすばらしいおもてなしには強く感銘を受けました。センターのゲストとして来て、ホストファミリーを紹介して頂きました。すばらしい日本食をごちそうになって、いろいろと学び、お友達も出来ました。計画を練ってくれた方、運転をしてくれた方、歌を披露してくれた方、料理をつくってくれた方たちみなさまのおかげで、すべてがすばらしい経験になりました。私達は自分達の都市や国ぐにが広島が持つ平和を求める姿勢から学ぶ事がたくさんあると感じました。

ケイト・ジョンストン



(縮景園散策)



(爆心地にて、阿波さん)



(ケイトとホストファミリーの田中夫妻)

最初に広島へ着いたとき、町全体の美しさや静寂さに心打たれただけでなくわたしがそこで出会った人々の愛情や親切さに驚きました。何人かの被爆者は、「過去のことです。今はより良い将来のために力を合わさなければなりません。」と、アメリカに対する気持ちを語ってくれました。

WFC、ホストファミリー、PAX 交換での経験は私の人生の中で一番有意義な体験になりました。この経験により今までと違った歴史観が芽生え、自分が無知なことに気が付

き、未来を良くする(調和と平和の未来を実現する)ために立ち上がって、行動を起こそうと意欲がわいてきました。

韓国に戻ってから私が教えている小学生たちに PAX での経験を話しました。新しくできた友達の話をしたり写真を見せたりしただけでも良くない関係を改善する小さな一歩になることがわかりました。関係改善に向かってともに歩む時の最初のステップになるよう心から願っています。

ホームステイを受け入れて

WFC 英会話クラス 田中健三

PAX Korea 2014 のホームステイの受け入れを打診された時、私と妻にとっては初めての経験であり、正直複雑な思いを感じながら迷いました。それは英会話を学ぶ WFC の生徒として、英語に接する絶好の機会であると言う能動的な自分と、妻が賛同してくれるだろうか、自分の英語力で大丈夫だろうかと言う受動的な自分との葛藤でありました。



(田中家で夕食のすき焼きを囲んで)

案の定、妻は私に「ゲストの受け入れは無理です。お風呂はどうするの。ピアノが置いてある六畳の和室にどうやって寝てもらうの。」と不都合なことを並び立てました。私は妻に「PAX USA 2013 の一員として、アメリカのホームステイで受けた、言葉で言い尽くせぬ温かい歓迎やもてなしに対してお返しがしたい。」と言いました。妻は私のこの一言にゲストの受け入れを承諾しなければならなかったと思ったようです。

5月1日、WFC で歓迎のポットラックパーティーが開かれ、ゲストのケイト(Kate Johnston) と面会しました。彼女は小柄で可愛い娘で、いつも彼から貰ったという小さな日本製カメラを手にして、所構わず写真を撮りまくる明るい娘でした。その夜からケイトは我が家へ三泊四日滞在しました。

彼女は自然体で、日本式の入浴、食事、生活様式を楽しんでいました。又、日本語にも大きな関心を持っており、旺盛な知識欲で、英語で〇〇は日本語で何と云うのですか等の質問を積極的に投げかけてきました。平和公園内での平和学習及び宮島、縮景園への観光に同行し、出来るだけコミュニケーションを図るよう努力しましたが、不満足な結果に終わり、英語力の無さを感じた四日間でした。

私はケイトに広島のお思い出として、旧 ABCG(現・放射線影響研究所)を案内すると同時に、比治山展望台から美しく再建された広島の街を案内しました。ケイトは日本食が一番の好物のように滞在中、すき焼き・寿司・刺身・てんぷら・茶碗蒸し等、沢山食べてくれました。久しぶりだったのでしょう。ケイトの実家にあるピアノは古くて、音色が悪いと言いながら、ピアノを上手く弾いていました。

PAX メンバーは素晴らしい若者たちで友好に溢れていました。お互いの心に友好、信頼の橋を架ける事の大切さを強く感じ、その一端に関わられた事をうれしく光栄に思っています。私も妻もホームスティゲストを受け入れる事が出来たことに小さな喜びを感じています。

ホストファミリーとして参加して

清野 久美子

今回ご縁があってホストファミリーとして PAX に参加することができました。海外の方たちが広島に来て平和について学んでいただくことを、とてもありがたく感じました。私自身も今後広島の体験を後世に伝えていくときに、海外の方たちがどのような思いでおられるのか、どのように感じられるのか、とても参考になりました。広島での被爆体験の聴講、平和資料館、平和記念公園などで学習されたことを今後何らかのお役に立てるように願っています。



(清野さん、マイケル、ヘザー)

私がホストを引き受けた理由として広島を肌で感じていただきたい、と思い今回参加させていただきました。広島の平和学習だけでなく、戦争が人を狂気に導くこと、戦争によって多様な人たちが犠牲になってしまうこと、また広島市の街のあちこちに残っている原爆の足跡、その後の復興した人間のたくましさなど色々と感じていただけていたら光栄です。

現在の社会情勢を見ていると、各国の政府間の思惑に人々の感情が流されそうになっている現状に危うさを感じています。しかしながら今回の交流で、国を超えて様々な立場の人が相互理解をすることができれば、それぞれにより良い方向性を見いだせるのではないかと思います。これから未来に目を向けて努力をしていきたいものです。

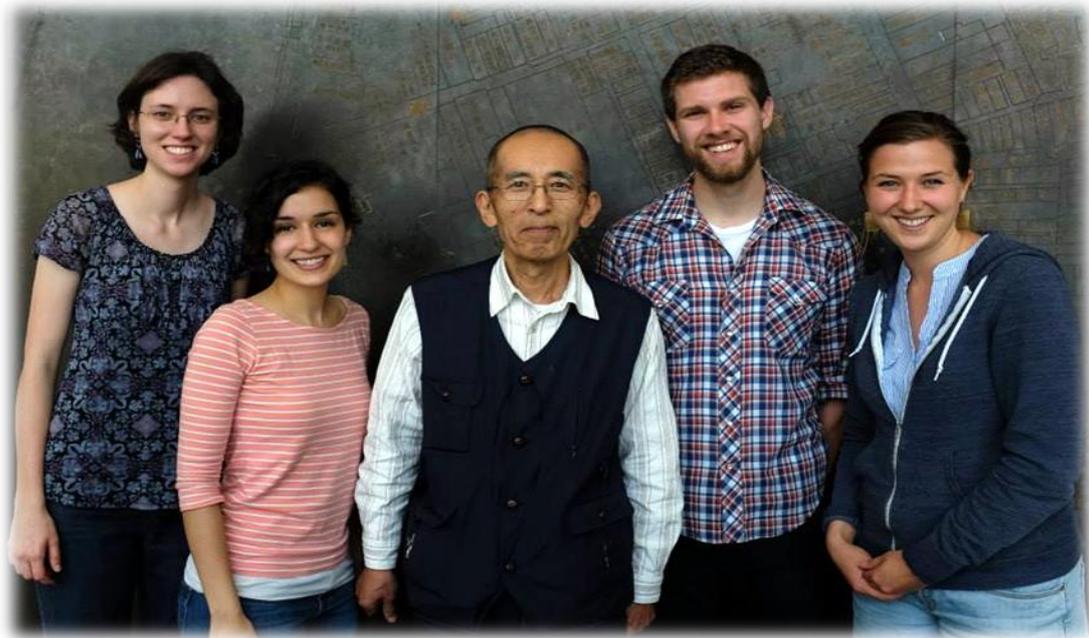
などなど固いことをいっぱい書きましたが、誠実な方たちと 3 日間を過ごすことができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。このような機会を与えてくださりましてありがとうございました。



(サラとミンジ、田口家にて)



(歓迎ポットラックパーティーにて、ピースクワイアーのメンバー)



(サラ、ケイト、堀江さん、マイケル、ヘザー)

4月のファンタイム・イン・イングリッシュのスピーカー

ジェイド・プリスキー

私の名前はジェイド・プリスキーと言いオーストラリアから来た31歳の女性です。私は昨年オーストラリアの学生グループと一緒に初めて広島を訪れました。そしてもし日本にまた来ることがあれば広島に住もうと心に決めました。今年の初めごろ東広島市の西条にある小さな語学学校の英語教師の仕事を引き受けた時、私の運命は決定的になりました。私は現在、語学学校の2つの教室、広島大学、近畿大学で教えています。



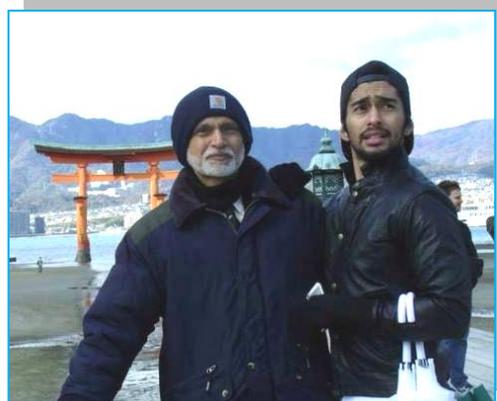
私はアパートに引っ越す前に、滞在場所を探していた時、初めてワールドフレンドシップセンターについて聞きました。地域に慣れたり、観光をしたりしなかったため、仕事を始める2~3週間前に広島に来たいと思いました。WFCは安い宿だったというだけでなく、被爆証言や平和公園ガイドもしてくれました。私はWFCのフレンドリーな雰囲気と平和推進のための素晴らしい働きに魅せられました。私はWFCの活動にもっと参加したいと感じ、3週間滞在し、WFCのメンバーとなりボランティアをしています。

私はファンタイム・イン・イングリッシュというWFCのプログラムでオーストラリアについて話しました。そして今、他のボランティアの方たちとともに若い人たちにもっとWFCの活動に参加してもらうように働きかけています。平和は世界中の人にとって重要であり、教育と対話を通じてのみ実現可能です。今、自分をWFCの一員とっていて、私は毎週土曜日にキッチンに座ってお好み焼を食べ、そこに居合わせた人と話しているということをみんなに知っていて嬉しいです。WFCは私の第二の家になりました。

5月のファンタイム・イン・イングリッシュ のスピーカー

アナンタ・バーウク

初めまして。私の名前はアナンタ・バーウクと申します。ハワイ州ホノルル出身です。私は山と海が好きで、広島は私の第二のふるさとなりました。



(宮島で、アナンタとお父さん)

ハワイでは大学で工学を学びましたが、最近23年間住んでいた家を離れて、日本で英語の先生をしています。それは26年間の人生の最善の決断でした。

時には私の家族や友人たちを懐かしく思い出しますが、心安らぎ、親しみやすく、素晴らしい気質の日本人に感動し、心惹かれました。そして日本のすばらしい食べ物にとっても満足しています。とりわけ、豚骨ラーメンが大好きです。

いつも人というものは自分自身に投資し、社会の中で何か役割を担うべきだと考えています。小さい時からのこの父の教えを信じ、グーグルで広島でのボランティアを検索しているとき、WFCを見つけました。私はシーニアと連絡を取り、ある木曜日の朝、WFCを訪ねました。私は2~3時間センターにいてその歴史を学び、そしてすぐにできる限り援助したいと思いました。運よく英語クラスの一つに参加して素敵なお時間を過ごしました。その日から、ここに住んでいる間は積極的に参加できる広島での活動の場所を見つけました。

新理事

ロン・クライン

大学の英語教授として広島に着任して以来、私はおよそ25年間ワールドフレンドシップセンターと関わってきました。その間、館長として派遣された何人もの献身的で大変素晴らしい方々とお知り合いになれたことを、とても光栄に思います。

アメリカで、平和活動に取り組んでいた者として、この地広島で、ヒロシマに興味ある人々が集える場所に出会いとてもうれしく思いました。広島にいる間、家庭的な雰囲気を味わえるので、WFCに滞在した多くのゲストにとって、WFCは特別な場所になってきたので

す。私の友人、ポーランド人の観禪和尚は、何度かワールドフレンドシップセンターに滞在し法話を行ったことがあります。

昨年の夏、私は念願だったアメリカPAXにやっと参加することができました。ハンフォード核施設やミニドカ日系人強制収容所跡地を訪問し、私にとって特別な旅となりました。

それから、私が援助を続けている聖ザビエル学園—インドの孤児達のための学校—への支援をしていただき、大変感謝しています。新校舎建設のための2度のチャリティコンサートで、ワールドフレンドシップセンター・ピースクワイアの皆さんが歌って下さいました。

この度、私は理事に就任することになり、ワールドフレンドシップセンターへの思いを新たにしています。これからの更なる50年の歩みに、微力ながら貢献することができれば幸いです。



大村直生



広島市に引っ越して来た二年前、友人のいないこの街で、私は少しばかり暇にしていました。居心地の良い場所はないものかと、生涯学習、文化、芸術、スポーツ、ボランティアなど様々なインターネットのサイトを見ていると、バーバラ・レイノルズという名前が目にとまりました。昔、ニュースで聞いたことがあったからでしょうか。自分の脳みそに尋ねてみたのですが、何も思い出せません。どんな人かしらと思いながら彼女についての記事を読んでいると、「出会いたかった人」だという思いが湧いてきました。私の手はキーボードをポコポコと叩いていました。そしてWFC宛のメールの送信ボタンをプチンと押していたのです。

私自身は被爆者でもなく、近親者に被爆者もいません。ヒロシマについては、まだ学ぶことばかりの未熟者の私です。それでも、おそらくほとんどの日本人がそうであるように、幼い頃から「戦争によってもたらされる悲劇を防ぎたい」と願ってきた一人です。今、こうしてリチャードとシーニアをはじめとし、ラリーとジョアン、そしてたくさんの素晴らしい方々とWFCで出会えたことに心から感謝しています。このたびは理事に加わることになりました。微力ながら、私自身に出来ることを一つ一つ積み重ねてゆきたいと思っています。未来は、今より、きっとすばらしいと信じて。

「希望のために・生命のために」

2014年3月23日 広島にて

[1987年のノーベル平和賞受賞者であるコスタリカの前大統領オスカル・アリアス氏による講演の一部を文中に引用しています。]

2014年3月23日、コスタリカの前大統領オスカル・アリアスとスザンヌ・デ・アリアス夫人に、夫リチャードと私が直接お会いできたことは光栄でした。この日、創価学会広島平和賞を授与されたのです。アリアス元大統領は、1987年に、平和的交渉と対話を通じて中米に平和を維持した功績で、ノーベル平和賞を授与されました。彼は1980年代にコスタリカの大統領を2期務めました。



アリアス夫妻は、宗教団体の創価グローバルアクションの招待で、広島を訪れました。この団体は、広島で強く反核を訴えています。アリアス氏の講演は、力強く感動的でした。「広島は、断固たる決意を持って復活し、そして平和の巡礼者を受け入れる希望の聖地になった。」と彼は言いました。彼はまた、サダコの希望の物語を通じて、平和のメッセージを伝えようとしてきました。「今日、私たちの心の中に平和への希望があるように、サダコの心にも希望があったのです。なぜ少女の夢を叶えるために千羽鶴は羽ばたかなかったのでしょうか。」

更に彼はこう続けました。「今日は、人類のための3羽の折り鶴を持ってきました。」

1羽目は、軍備縮小への私の祈りを込めています。軍事予算は、病気を撲滅し識字率を上げるために使うべきです。

2羽目は、核兵器の生産、兵器の拡散の終結への祈りを込めています。

3羽目は、地球上の核兵器廃絶への祈りを込めています。1980年代、国連で核弾頭の廃絶が討議されました。しかし、1万7千発の核弾頭がいつでも使えるように配備されています。

現在、あまりに多くの子供たちが苦しんでいます。子供たちから夢を奪うのは止めましょう。彼らには教育、福祉、そして健康が必要なのです。子供たちを大切にし、人の命を損なわないようにしましょう。今こそ子供たちの声に耳を傾け、希望を新たにする時です。なぜなら、希望こそが勝利をもたらすからです。

核兵器の無い世界で、恐怖に怯えず暮らす権利が私たちにはあります。子供たちがこの権利の実現を願っています。平和のために、なぜ千羽鶴は羽ばたかないのでしょうか。なぜ千羽鶴は歌わないのでしょうか。私は、千羽鶴がいつか歌いながら空を羽ばたく日が来ると信じています。その時、平和の歌が聞こえるでしょう。それが私たちの唯一の希望です。」

訃報

アレン・ディーター



WFCと繋がりがああるアメリカ委員会の元委員長のアレン・ディーター先生が他界されたのを最近知りました。ディーター先生は、インディアナ州のマンチェスター大学で平和学について教鞭とっていました。

2013年12月20日に心臓発作で亡くなりました。享年84歳でした。

ご遺族は、妻ジョアンさんと3人の息子さんです。

トルーマン大統領のお孫さんとのスカイプインタビュー

森下弘



トルーマン大統領のお孫さんから私たちの被爆体験をとの要望があり、いろいろ相談した上、スカイプでの直接対談がいただろうとのことで、1月22日、山根さんの通訳で対談を行いました。ダニエルさんは、被爆者たちの体験、苦しみ、平和への思い、そして彼らとの出会いや共感などを記録し、家族としてのお爺さん(トルーマン大統領)のことなどをまとめる仕事をしようとしています。

私も体験を語るとともに、第一回平和巡礼でバーバラさんたちと共にトルーマン大統領に会った時のことや感想などを話しました。さらに、スカイプというインターネットを通して会話をしたので、WFCの雰囲気を彼に映像で紹介することができました。館長達も顔をのぞかせて彼と話をしました。

その後、ダニエルさんの思いや、一昨年の訪広のことなどメールを寄せてもらいました。それらについても、併せて交流を続けお互いの思いを深めてゆきたいと思っています。



(2014年1月22日、WFC前理事長の森下先生はアメリカ合衆国トルーマン大統領のお孫さんのクリフトン・ダニエル・トルーマンとスカイプでインタビューを受けた。)